

諫早市教育委員会議事録
令和6年第9回（8月定例）

令和 6 年第 9 回（8 月定例）教育委員会

- 1 日 時 令和 6 年 8 月 2 1 日（水）
1 6 時 0 0 分～1 7 時 0 5 分
- 2 場 所 諫早市役所 7 階 会議室 7－1
- 3 出席者 教育長 石部 邦昭
委 員 原田 裕介
委 員 山口 秀雄
委 員 中野 高子
委 員 小野 靖彦
- 4 会議に出席した事務職員
教育次長 石橋 芳秋
教育総務課長 新野 純子
学校改革推進室長 池 政信
学校教育課長 田上 顕二
生涯学習課長 竹島 健吾
- 5 議題
報告第 8 号 諫早市通学区域審議会からの答申について

議事録署名人の指名

原田委員と小野委員を議事録署名人に指名

議事の非公開

学校教育課長報告事項は、個人特定の可能性があるため非公開

議事録の承認

令和6年第8回（7月定例）教育委員会の議事録について
質問・意見なし
原案どおり可決

教育長の報告の要旨

《教育長の報告》

今回の報告は3点である。まず、「この後の学校教育」ということで、「チームとしての学校」を意識した学校運営を推進することである。1つ目には、校長のリーダーシップの下、カリキュラムや日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、子供たちに必要な資質・能力を身に付けさせる。つまり、校長のリーダーシップの下に、教職員の他、学校のいろいろな職員が、その専門性を生かして教育を行ってほしいということである。2つ目は、教員はより教育指導や生徒指導に注力することなのだが、何と言っても授業である。「知識・技能の習得を徹底し、主体的・対話的で深い学び、かつ、個別最適な学びと協働的な学びを力強く継続して実践する」。その検証は「校内研修」である

とか、「指導主事等の参観・指導」であるとか、「県と国の学力テスト」で行うように考えている。生徒指導については、児童生徒に基本的生活習慣の確立を説いていきたい。また、平和教育や多様性教育を基盤にしながら、他を気遣うことのできる優しい人間作り、いじめのない明るい学級を作ってほしい。

3つ目は、多様な専門スタッフということで、学校にはICT支援員、ALT、特別支援教育補助員、心の相談員、学校図書館運営支援員、カウンセラー、スクールソーシャルワーカー、部活動外部指導者、学校用務員など、いろいろな職員が配置されているので、その方々が自分の領域において成果を上げてもらえるように、管理職は気配りしてマネジメントしてほしい。

4つ目は、学校・家庭・地域が「つながる」ということ。今、コミュニティスクールを推進している。現段階で小学校は、28校のうち既に導入している学校は5校あり、来年度導入しようという小学校が5校ある。中学校が14校のうち既に導入している学校が3校あり、来年度導入しようとしている中学校が1校ある。まだ過半数には達しておらず、導入に少し躊躇されている状況である。そのメリットがまだ感じられないのではないだろうか。諫早には従来から、学校支援会議という非常に熱心に学校を支えている組織があるので、それで事足りているという感じがあると思う。しかし、学校支援会議はボランティアになるが、コミュニティスクールは法的裏づけのある組織ということもあり予算措置ができる。そのメリットが分かるように、できれば来年度からコミュニティスクールを導入している学校には予算措置ができないか、今研究を進めているところである。

学校教育課の中でも、コミュニティスクールについて研究を推進していくということで、他県の進んでいるところを視察するなどして、それを学校に還元する。さらに、PTAとも協働していく。保護者の方とも一体となって学校を運営していかなければならない。それから、幅広い地域住民の参画を得て、伝統芸能の継承や防災教育を実施する。地域住民の方の学校に対する愛着や、伝統芸能の継承、防災教育は非常に重要な点である。また、商工会議所の青年部や企業との連携による職場体験、インターンシップといった形で、多くの方々と連携しながら教育を行っていきたい。

2番目。全国学力テストが4月に実施され、小学校6年生は国語、算数、中学校3年生は、国語、数学、アンケート調査が行われた。7月の下旬に全国や県、諫早市の調査結果が出たので、詳細については後ほど学校教育課長から報告がある。私からは、子供たちのア

ンケート調査のところを少し触れさせていただく。

まず、アンケート調査の回答の選択肢に“当てはまる”“ほぼ当てはまる”などがあるのだが、“当てはまる”というところだけを抽出した。そうすると、全国平均、県平均よりも諫早市の子供が小・中学校ともに上回っているものがあることが分かった。上回っていたものは、「朝食を毎日食べている」と答えた率が、小学校が86%、中学校が85%で、諫早では、ほとんど毎日朝食をとっているという子供の割合が、全国平均と県の平均よりも上回っている。それから、「毎日、同じぐらいに起きている」のが58%と61%。これも全国平均と県の平均を上回った。それでも6割ぐらいなので、全国はもっと低い。3つ目は嬉しいことに、「人の役に立つ人間になりたい」という率が73%と74%で、県の平均と全国平均を上回ったのは、私は大変嬉しく思う。人の役に立ちたい、役に立つ人間になりたいと思っている子供が多いということである。

反対に、下回ったもの、“当てはまる”という回答が一番低かったものはどういうものがあるかというと、「スマホなどの使い方について、約束したことを守っている」と答えた率が35%と30%である。つまり、約束したことを守っていないわけで、7割の子供たちが守っていない。そういった諫早の子供たちの状況である。

それから、「先生はあなたの良いところを認めているか」という質問では当てはまるという回答が半分ぐらいである。そして、「土曜日、日曜日にどれくらい勉強しているか」を塾とか家庭教師なども含んで聞いているのだが、これも当てはまる率が一番低かったということで、若干家庭学習が不足していることがうかがえる。

2027年度から学力テストは全面的にオンライン化する。タブレットで答えることになる。去年だったと思うが、英語でオンライン化を実施した。それが、今から3年後の2027年度に学力テストは全部オンライン化される。そのため試験的に来年度から中学校の理科、26年度から中学校英語をオンライン化し、そして27年度から全面実施ということになる。今、タブレット端末の持ち帰り等についても盛んに言っているので、さらに利活用していくよう教育委員会もバックアップしていきたいと考えている。

3番目。8月下旬の主な出来事から。月曜日に諫早・大村地区の初任者研修会があった。教員の研修会である。大村市で開催され、小・中学校の初任者50名全員が参加した。50名のうち諫早市が26名、大村市が24名になる。私も出席したが、話し合いをしたり、講義を聞いたりしている初任者の姿がとても新鮮で、頑張っているなど感じた。そして、研修会の最後に私から励ましの言葉とし

て、「明けない夜はない」という題目で話をした。今順調に来ている人はいいけれども、いろいろ悩んだり、つまずいたりしている人もいるかもしれない。しかし、それは誰でも経験することで、そういう暗闇を一生懸命もがいていくと、子供たちにはその姿がしっかりと伝わる。だから、きっと子供たちはついてくるので、自信を持って指導をしてもらいたいというようなことを伝えた。

また、皆さんそれぞれに不得意分野があると思う。特に小学校の先生は全教科を教えるので、不得意分野があるかと思うが、その不得意分野は意外に子供たちに受け入れられる。それは、私の経験でもそうだが、不得意分野については一生懸命自分が理解しようとして勉強するので、分かりやすく教えることができる。反対に得意な分野は、みんな分かっているだろうと思って簡単になってしまうので、子供に分かりにくいことがある。したがって、不得意なところは一生懸命頑張ればきっと子供たちはついてくるという話をした。

そして、明るいクラスを作っていくということである。人間、褒める指導はやはり大事だと思う。だから、できるだけ、1つ叱ったり、指摘したりしたときは、倍褒めるというような話をして激励してきた。

次に、諫早市通学区域審議会を開催した。今日、この後の報告でその内容について説明がある。23日金曜日は、部活動の地域移行説明会をいいもりコミュニティ会館で開催する。参加者は学校関係者、保護者、部活動指導者、競技団体関係者などで、講師は県の体育保健課と長与町の教育長である。長与町は国から指定を受けて、今地域移行を進めているので状況について発表してもらおう。また、諫早市の教育委員会も一生懸命様々な検討を行っているので、現状や課題、今後の推進計画を説明することにしている。24日の土曜日は、図書館120周年記念の行事が開催され、市川森一さんの妻である柴田美保子さんの公演と、中古賀陽子さんが講師の講演が行われる。また、その講師お二人と高校生、そして私の3人が「地域に貢献する図書館」という題目でシンポジウムも行われる。9月の定例市議会は30日に開会、一般質問は9月4日から行われ、9月議会には決算審査もあるので1ヶ月以上の会期になり、10月4日に閉会の予定である。

《教育長の報告に対する質問・意見》

[委員]

基本的生活習慣の確立について、教育委員会では対応が難しいと思うが、小学生で運動をしている子供たちが、夜9時とか遅いところ

ろだと10時ぐらいまで練習している。諫早は学校が始まるのが早いので、子供は朝6時半には起きないといけない。小学校低学年の望ましい睡眠時間は10時間、高学年でも9時間ぐらいになるため、朝6時半に起きるならば小学生では夜9時台には寝た方が良い。しかし、1歳半健診での状況を見ると夜9時半より前に寝ている子は2割ぐらいしかいない。1歳半で2割である。そのことをお母さんに言っても、結局共稼ぎでそのぐらいになってしまうということである。

小学校で夜9時、10時まで練習していても、みんな何とも思わないのかなと思う。どう考えても睡眠不足になるし、生活のリズムが崩れてしまう。だから、小学生が遅くまで練習するのはよくないと思うのだが、しかし、運動は良いことであるという認識から、皆さん熱心に取り組んでいるのかもしれない。生活習慣の確立においてスポーツも大事であるが、家の手伝いなども小学生にとってはより大事であると感じる。スポーツを行うのであれば、もっと早い時間に楽しく行い、その後は宿題をしっかりとこなし、家のご飯の片付けや洗濯の手伝いをする方が望ましいのではないかと思う。

[委員]

私も道場と呼ばれるところに通って運動をしているが、小学生から大人まで参加しており、今、言われたように夜9時ぐらいに終わるので、小学生が帰ってご飯を食べて、お風呂に入って、宿題を済ませる頃にはかなり遅い時間になってしまう。親の仕事の都合もあるかと思うが、道場としては早めに切り上げる必要があるのかなと感じる。また、指導に来る先生方も夕方仕事が終わってから道場に来るため、子供たちの能力を伸ばすための時間が不足しているという面もある。そういった状況を考えると、解決策を見つけるのは非常に難しいと感じる。

[委員]

中学校では練習時間を短くしている。だから、小学生であれば1時間から1時間半程度で練習を終える方が良い。しかし、指導者たちは、過去の長時間練習に慣れているため、練習時間が短いと能力を伸ばすことができないという固定観念があり、その結果、練習は夜9時頃までして、さらに熱心な子は居残り練習を行うという状況が見受けられる。このような状況については、どうにもならないと思いつつも非常に問題だと思っている。

[学校教育課長]

子供の生活リズムは、特にスマートフォンの影響を受けるため、睡眠の重要性について、以前に管理職研修で取り上げたことがある。

今後、睡眠時間を適切に確保するという意味で、生活リズムの改善について、指導を行うように改めて話をしたいと思う。

[委員]

早寝・早起き・朝ごはんを最初に提唱した先生は、文科省がその取り組みを始め、現在の早寝・早起き・朝ご飯の活動が、自分が意図する趣旨とは少し違うので止めてしまった。早寝があつてこそ早起きなので、早寝なしの早起き、朝ごはんになっているところが、どこでもあるのではないだろうか。

[委員]

平日の夜の練習時間も気になるけれども、土日朝から晩まで県外遠征があつたりする。子供の頃は、家のお手伝いなど様々な体験をして成長していくものだと思うのだが、どうしても体験に偏りができてしまっている側面もあるのではないかと危惧している。

[委員]

確かに遠征があると土日潰れている。常に何か運動をしている子もいるので確かにそうだと思う。

[教育長]

中学校は土日のどちらか休むようにしているのか。

[学校教育課長]

土日のどちらか休むようにしている。練習時間も夏は午前中の短い時間で行うよう工夫している。ただし、クラブチームなどの外部の団体は例外となる。

[委員]

部活動での活動は、しっかりと時間を決めて活動している。しかし、クラブチームでは全く規制がかからない。

[教育長]

先ほど、部活動の地域移行説明会を開催するよう話をしたが、その際には、歯止めとなる規制等についても確認をしていかなければいけないと考えている。学校教育から離れてしまうと、勝利至上主義に陥る危険性がある。勝つことだけを追求するような状況にならないようにすることが大事である。子供たちの身体は一つなので、大人の価値観や期待に振り回されることは望ましくないと思っている。そのため、私たちもその点についてしっかりと取り組んでいきたいと思う。

[委員]

研修について、初任者研修が今回あったということだが、初任者研修というのは1年に何回あるのか。

[教育長]

1年に5回ある。

[委員]

指導主事の参観や指導、校内研修とあるけれども、具体的に初任者研修以外の校内研修とか指導主事等による指導とか年間どのぐらいしているのか。

[学校教育課長]

具体的な数字は今持っていないのだが、校内で行う研修については回数が決まっている。概要で言えば、再任用の退職校長先生が学校を回っての初任者指導、また、校内で校長や教頭、教務主任などが指導を行ったり、校内でも担当がいて指導を行ったりするので、校内ではかなりの回数研修をしている。

[教育長]

初任者だけではなくて、ミドルリーダーや教務主任、研究主任についても、いろいろな機会に研修を行っている。

[委員]

途中で辞められる方も結構いると聞くので、是非、アフターフォローについても十分に対応してもらいたい。

[委員]

全国学力テストに関して、学力ではなくアンケートの結果で、特に、「先生はあなたの良いところを認めてくれている」という項目が下回ったということは、認められていないと思っているということなので、少し寂しい気持ちになった。

それと、初任者研修会で教育長が激励された際の話の中で、1つ注意や指導を行った場合には、その倍褒めることが大事であると言われていた。私も褒めて伸ばすことは大切だと思うし、初任者に限らずベテランの先生たちにも重要であることを伝えてほしいと思う。

[教育長]

厳しい指導もあるのかと思うが、私自身の経験から言うと、褒めて伸ばすのが最も効果的だという感じがする。結論としては、叱って伸ばす方法もあるが、褒めながらできていないところや気を抜いているところについて適切に指摘することが重要である。家庭教育においても同じだと思うが、家庭教育は非常に難しい。

[委員]

2点ある。1点目が、平和教育や多様性の教育についてで、そういった教育に関して、今、働き方改革も言われているので、今後は外部講師に委託などして、教師も生徒と一緒に学ぶというようなスタンスでするのもいいのではないかと思います。

2点目は、学力調査のアンケートに関して、スマホのルール作りや生活習慣のことで、これが下回っているという状況は非常に悩ましい問題であると思う。ただ、スマホのルール作りというと、スマートフォンのことが中心になってしまうようなところがあるけれども、一番大事なのは睡眠時間を確保することや優先順位をつけて生活リズムを整えることなので、どうやって基本的生活習慣を身に付けるかという中の1つに、スマートフォンをどう使うかということがある。したがって、保護者に対してスマートフォンの使用についてのみを言うのではなく、睡眠時間が大事だから睡眠時間から逆算することで就寝時間が決まり、その結果としてスマートフォンの使用時間が限られるということを親子ともに伝える必要がある。

また、子供は約束をすぐには守ることができないというのは、大人であれば誰しも経験があるかと思う。しかし、最近の家庭教育においては、約束を数回守れないと、「うちの子には無理だ」と親が諦めてしまう傾向が見受けられる。だから、保護者にも見守り続けること、子供の成長を諦めないことを伝えていく必要が今の時代あると思う。

[教育長]

睡眠の効用がどういうものなのかを、みんながもっと知る必要があるのではないかな。

[委員]

睡眠には深く眠る睡眠と夢を見ている睡眠があり、夢を見ているレム睡眠の時に記憶が定着する。したがって、練習した体の動きや勉強したこともレム睡眠中に頭に定着する。野球の大谷選手も十分に睡眠をとっていることが運動能力に大きく影響していると考えられる。

また、レム睡眠は睡眠の後半に現れる。最初に深い眠りに入り、明け方近くになってレム睡眠が現れる。睡眠時間が短くなると必然的にレム睡眠が減少する。だから、睡眠時間を削って勉強をしてもおそらく頭に残りにくい。適切な睡眠時間をとって、時間を決めて短時間で勉強する方がより覚えることができるし、運動にしても睡眠時間を削って一生懸命練習しても、それが体に定着しにくい可能性が高いと思う。

それと、睡眠時間が短くなると攻撃性が高まる、イライラするといったADHDに似た症状が現れるというデータがある。また、オランダだったと思うが、小学生の頃に睡眠時間が短いと大人になった時に攻撃性が高くなるというデータもあるし、さらに、睡眠時間が短いと風邪の感染率とも関係してくる。

風邪の原因となるウイルスの中で一番多いのは、ライノウイルスというもので約150種類くらいある。150万ものウイルスに対してそれぞれ免疫を作る必要があるため、すべてのウイルスに対して免疫を作るのは難しく、大人の風邪の約3分の1はライノウイルスによるものになっている。そのライノウイルスをボランティアの人の鼻に入れて、どの程度の症状が現れるかという実験をしているものがあるが、睡眠時間が短い人は発症率が高い。一方で、十分な睡眠をとっている人はあまり発症しない。したがって、免疫力が高くなることは確実なので、風邪やインフルエンザを予防するために十分な睡眠をとりましょうというのは根拠があり、人間は寝ている間に身体が修復されるし、記憶も定着するため、睡眠不足になるのは好ましくない。

さらに、普段8時間寝ていた人たちを3時間、5時間、7時間、9時間の睡眠に分けて5日間の睡眠制限を行った後、2日間元の状態に戻すという実験があるが、2日経っても元の睡眠時間に戻らない。5時間睡眠の人では悪化した状態が2日経ってもあまり改善されず、7時間睡眠でも少し悪くなり、その状態から戻らない。したがって、そのデータが正しければ、平日は睡眠不足で、土日に十分に睡眠をとっても睡眠不足は解消されないし、脳のパフォーマンスも改善しない。しかし、その状態で長期間生活していると、低下したパフォーマンスが自分の通常のパフォーマンスだと錯覚し、土日に寝ているから平日に睡眠不足で頑張っている問題ないと勘違いしているのではないかと思う。

また、スタンフォード大学で行われた研究では、参加者は8人と少ないが、7時間40分ぐらい睡眠をとっている人たちに14時間ベッドに寝るように指示したところ、初日は約13時間寝て、その後徐々に睡眠時間が減少し、3週間後に8時間程度に落ち着いたという結果であった。睡眠不足を完全に解消するためのデータで、それが正しければ、解消するには約3週間を要することになるので、日頃、睡眠不足を抱えている人は、おそらく自分が睡眠不足であることを自覚せずに生活していて、睡眠不足で低下したパフォーマンスが当たり前だと思っている可能性が高いと思われる。そこが問題であり、なかなか睡眠を確保することに結びつかない。

現在、久留米大学学長 内村直尚先生は、精神科における睡眠研究の大家であり、日本は睡眠教育が行われていないことが問題であると指摘している。他の先進国では、子供から大人まで睡眠をとりましょうという睡眠教育が行われているのに対し、日本では全く行われていないため、睡眠教育の必要性を言われている。

[教育長]

子供から大人まで、睡眠の効用の科学的な根拠が分かるような説得力のある話をする 것도 大事である。

《議題》

報告第8号 諫早市通学区域審議会からの答申について

学校改革推進室長 説明

質問・意見なし

了承

《学校教育課長の報告（非公開）》

令和6年度長崎県学力調査及び令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

削除

その他

教育総務課長

- ・9月定例会教育委員会の日程について説明
- ・教育委員会行政視察研修の日程について説明

17時05分閉会